

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2020年12月24日】第67号



## 子どもたちからさようなら

12月23日(水)は、子どもたちが大好きな音楽の先生の最後の授業でした。ご出産のために退職されるからです。2年生の子どもたちは、先生のご指導で培った素敵な歌声で、先生をお送りしました。もちろん、手話も交えた「東京農業大学稲花小学校の歌(作詞：谷川俊太郎先生、作詞：谷川賢作先生)」も思い出深い歌です。感染症防止のために、大きな声では歌えませんでした。先生との楽しかった音楽の授業、運動会、ミュージカルなど様々な場面が思い出されたことでしょう。

1年生の子どもたちからは、折り紙で作った花束をプレゼントしました。ちょっと折るのが難しいかもしれないと心配したのは杞憂に終わり、自分たちで作る！と決めた花束のでき具合は、予想以上のものでした。真心のなせる業ですね。

農大稲花小の子どもたちと、しっかりと絆を作ってくださった先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。子どもたちの心も一段と成長したようです。

## 終業式を迎えて

12月24日(木)には終業式を迎え、2学期が終了します。農大稲花小の教員は、成績表「みのり」への記入や確認をいたしました。本校では「3つの心と2つの力」を育成するため、「10の能力」を教育指標として設定し、教育方針を実現するカリキュラムを作成しています。そのため「みのり」も、「10の能力」がどのように身についているかを示すことを目的としています。何かが「できたか、できなかったか」だけに注目するのはなく、子どもたちの「取り組みの姿勢とその成果」に注目した評価を行います。何事にも積極的に取り組み、友だちとそれを共有しようとする姿勢を評価しています。

さて、冬休みは子どもと家族がゆっくり向かい合う時間がとれる時期です。新型コロナウイルス感染症防止を第一に考える今は、なおさらでしょう。どうぞ、2学期最後の日に持ち帰る作品や「みのり」をゆっくりとご覧いただき、子どもたちの頑張りを大いに褒めてください。そして、子どもたちが意欲を持って3学期を楽しみに迎えられるよう、保護者の皆さまからのご指導をお願いいたします。

## 成長した子どもたち

新型コロナウイルス対策に追われた2020年でしたが、子どもたちの成長は悪玉ウイルスに負けていません。朝の挨拶からはじまって、授業を受ける姿勢、図書館に本を借りにくるときの態度、グラウンドで元気に遊ぶ様子、友だちと楽しく語り合う姿など、子どもらしいかわいらしさの中に、しっかりとした取り組みや物腰を見ることができます。上級学年のいない本校ですが、2年生は2年生らしく、1年生は1年生としての成長を感じることができるのは、うれしいことです。そのような中で、癩癩を起してけんかをしたり、授業中にぼーっとしたりしていると、今までとは違い、友だちに対してカッコ悪い、恥ずかしいかもしれない、という気持ちも芽生えてくるようです。自分中心の世界から、自らを客観的に見ることができるようになれば、さらに成長していくのでしょうか。

本校では、すべての教職員で一人一人の子どもたちの心の成長を注意深く見守っていきます。それぞれのご家庭が子どもの心の一番のよりどころでありますよう、保護者の皆さまの温かい見守りもお願いいたします。

## 今年もお世話になりました

来年は丑年。東京農業大学富士農場で撮影された牛の画像が、東京農業大学から提供されています。富士農場は、富士箱根伊豆国立公園内に33haもの敷地を持つ本学最大規模の農場で、農大稲花小の子どもたちの訪問も予定しています。

今年も農大稲花小は東京農大の教育資源をフルに活用させていただきながら、教育を展開してきました。お世話になったたくさんの皆様には御礼を申し上げますとともに、来年もどうぞよろしく！と、子どもたちとともにお願いする次第です。

大学の正門には早々と門松が飾られました。皆様にもどうぞ、よいお年をお迎えください。

東京農業大学HP：<https://www.nodai.ac.jp/news/article/25501/>

校長 夏秋 啓子